留学目標の意識と能力の変化

—留学前後の留学JAOSアセスメントテスト結果からの考察—

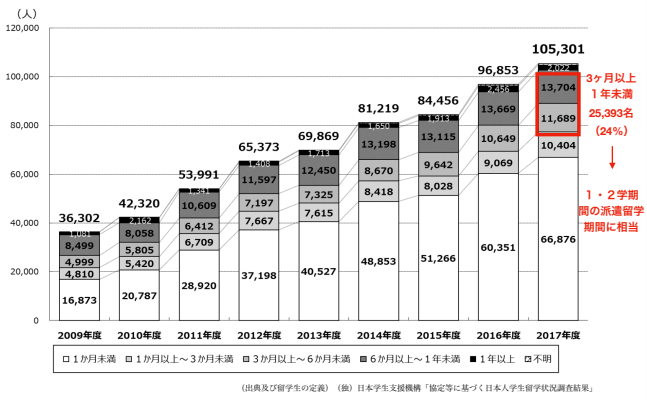
異文化間教育学会第40回大会@明治大学
２０１９年６月９日（日）

新見有紀子（東北大学）
阿部仁（一橋大学）
星洋（行動特性研究所）

本日のスケジュール

- 背景：日本からの海外留学の増加と、留学効果測定の試み
- JAOS留学アセスメントテストの概要
- 本分析の概要

日本の大学等からの留学者数の推移



（出典及び留学生の定義）（独）日本学生支援機構「協定等に基づく日本人学生留学状況調査結果」

留学が個人に及ぼす影響

- **留学した個人に対する留学直後のインパクトの例（Meyer-Lee・Evans, 2007）**
  - 語学面
  - 異文化間能力（知識、態度、スキル）
  - 学術分野における知識
  - 社会情緒面（自立性、対人関係力、自信など）

グローバルな環境で活躍するために必要とされる能力

- **グローバル人材に求められる資質**（グローバル人材育成推進会議, 2012）

（1）語学力・コミュニケーション能力
（2）主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感
（3）異文化の理解と日本人としてのアイデンティティ

- 社会人基礎力（グローバル人材育成推進会議, 2010）
  - 前に踏み出す力（主体性、働きかけ力、実行力）、考え抜く力（課題発見力、計画力、創造力）、チームで働く力（発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力）などの汎用能力（経済産業省・中小企業庁, 2018）

コミュニケーション力の重要性

- 日本経済団体連合会（2016）新卒採用に関するアンケート調査：2004年から13年連続で、大学卒業者の採用選考において企業が重視する能力の第一位。
- 国際事業を展開する企業の人事部門の多くは、高等教育機関に「国内と同様、自分の考えをしっかりともち、それを相手に伝える基礎的な力」を持つ人材の育成を期待（徳永, 2011）。

今回の調査対象項目

4つのグローバル力	コンピテンシー
コミュニケーション力	傾聴力、共感力、受容力、主張力、自己開示力、プレゼンテーション力
問題解決力	計画立案力、情報収集力、企画提案力、迅速実行力、変化応用力、完結達成力
グローバルで活躍する姿勢（Global Mind）	チャレンジ力、成功への熱意、主体的行動、多様性受容、探究心
留学で求められる行動（Global Behavior）	積極的な質問、パーティシペイト、持続力、評価の受容、ホスピタリティ

留学効果の測定

- 学習評価の分類：間接評価と直接評価（山田, 2012；松下, 2012）
  - **間接評価**：学習成果を学生自身に評価させ、答えさせることによって間接的に評価する方法（例：自己評価に基づくアンケート調査）
  - **直接評価**：学習成果を、学生自身に提示させ、直接的に評価する手法（例：標準テスト、客観テスト）
- 留学の効果は、主として自己評価（間接評価）で求められてきたが、客観性を高める上では直接評価も欠かせない（河合塾, 2018）
- EBPMという観点から、海外留学が、グローバルな環境で活躍するために必要とされる能力の向上に与える影響について検証する必要性（総務省, 2017）

留学効果に関する直接評価のツールの例

- **IDI (Intercultural Development Inventory)** (Hammer, Bennett, Wiseman, 2003）
  - Developmental Model of Intercultural Sensitivityを基とした診断ツール
- **BEVI (Beliefs, Events, and Values Inventory)**（Shealy, 2015）
  - 人々の心理構造や異文化受容性を含む人々の信条・価値観・世界観に焦点を当てたアセスメントツール（日本語版分析ツール（BEVI-J））
- **JAOS留学アセスメントテスト（行動特性診断）**（JAOS,行動特性研究所）
  - 留学を通じて起こる能力・姿勢・行動の動的な変化測定のツール（後述）

アセスメントツールを用いた留学の効果に関する国内の先行研究より

学校法人河合塾（2018）、西谷（2018）などによると

- 留学のアウトカムは、プログラムごとに異なる
- 留学前のテストでの測定値の高い学生については、留学を通じた測定値の伸びが限られる傾向
- ただし、留学のアウトカムに関するアセスメントツールを用いた分析は未だ限り限られている上、グローバル人材の資質・能力に関連する、より多様な側面に関しても、客観的な指標を用いて検証をする必要がある。

JAOS留学アセスメントテスト（行動特性診断）

『JAOS留学アセスメントテスト』　とは

行動特性の診断をベースにした

留学を充実させるためのアセスメントです

JAOS留学アセスメントテストの全体像

(A) 行動特性の分析

①認識の傾向を分析

②関係の傾向を分析

③対応の傾向を分析

④表現の傾向を分析

(B) グローバル能力の診断

① コミュニケーション能力 6項目

② 問題解決能力 6項目

(C) Global Mind と Global Behavior を診断

① Global Mind 5項目

② Global Behavior 5項目

(D) 留学環境への適応を診断

①ディレールメント（対人関係マイナス行動）

②ストレス状態とストレス耐性

(E) 留学を充実させるアドバイス

①強みとして発揮している能力に関してのアドバイス

②留学を充実するための現状の課題をアドバイス

受験システム

「行動特性診断テスト」の受検方法

①PC、スマホで受検が可能
②配布された受検案内シートに記載されているログイン・アドレスにアクセス
②パスワードを入れアクセス
③受検開始（約20分）
④受検完了後に診断結果をフィードバック

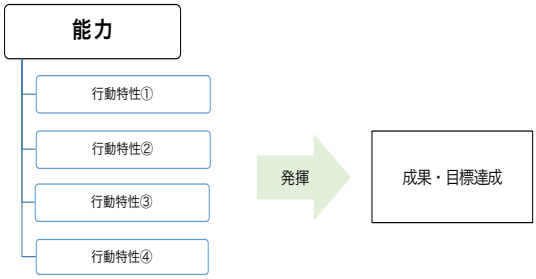
ログイン画面

「留学アセスメント」の受検方法

①質問は38問あります。
②質問と回答方法に関して
各質問には『１・２・３・４』と四つの選択肢があります。
四つの選択肢を、あなたが最も行う行動を『１番上』、次に行う行動を『２番目』
その次の行動を『３番目』、最も行わない行動を『４番目』と、上から順番に並べて下さい。
（スマートフォンをご使用の場合は指先でスライドさせて上から順番に並べて下さい。）
③回答時間に関して
回答時間に制限はありません。20分程を目安として下さい。

行動特性と能力

能力（コンピテンシー）を行動の組合せで測定



行動特性とは、さまざまな状況において一貫して現れる行動の傾向

能力の向上 = 能力を構成している一連の行動の変化

能力（コンピテンシー）と行動特性

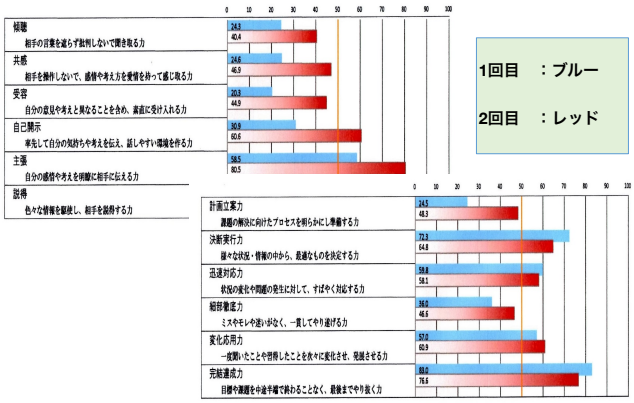
能力とは目標を達成するために必要なスキルであり、
性格によって決まるのではなく、
行動の組合せによって発揮される。

能力を向上するためには、
その能力を構成している行動の変化が必要。

（例）「持続力」の向上のためには、
持続力を構成している
「徹底性　目的性　秩序性　自己効力性・・・」行動特性の
変化が必要。

能力の変化測定（例）

コミュニケーション力、問題解決力の変化



1回目　：ブルー

2回目　：レッド

【海外留学協議会（JAOS）とは】

- 1991年に留学事業の健全な発展と国内の留学啓蒙のために組織された機関。オーストラリア大使館マーケティング事務所、ブリティッシュ・カウンシルを含め、65以上の留学サービス事業者が加盟。
- 行動特性研究所は脳科学や心理学の領域にまたがり人間の行動に関して研究している機関。
- JAOS留学アセスメントテストは「留学の成功」を支援するために（社）行動特性研究所と共同で開発。

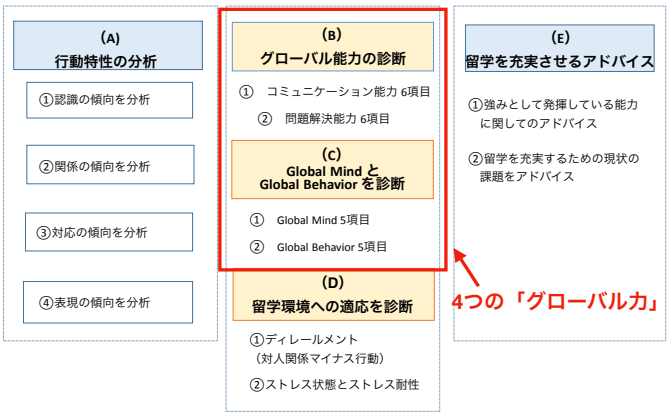
一般社団法人 海外留学協議会
Japan Association of Overseas Studies

本報告で行う分析の概要

本調査の背景

- 分析対象大学では2016年度以降、1～2学期間の派遣留学に参加する学生に対し、留学前後にJAOS留学アセスメントテストを実施。
- **JAOS留学アセスメントテスト採用の背景：**
  - 本テストは行動は変化するという思想で設計されており、また、主に行動に関する項目の分析を行うため、留学を通じて起こる行動の変化測定に適している。
  - 本テストは、学生が自らの行動特性を理解し、留学中に向上させたい能力とその達成のための行動を意識化させ、変化・育成を促す教育ツールとしても有用。

JAOS留学アセスメントテストの全体像

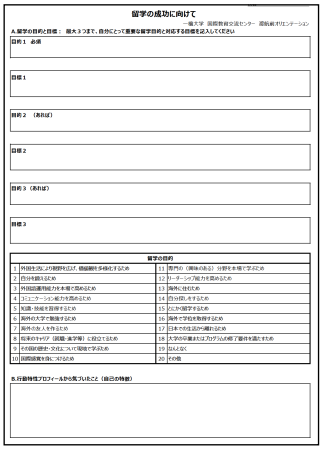


JAOS留学アセスメントテストの項目

4つのグローバル力	コンピテンシー
コミュニケーション力	傾聴力、共感力、受容力、主張力、自己開示力、プレゼンテーション力
問題解決力	計画立案力、情報収集力、企画提案力、迅速実行力、変化応用力、完結達成力
グローバルで活躍する姿勢（Global Mind）	チャレンジ力、成功への熱意、主体的行動、多様性受容、探究心
留学で求められる行動（Global Behavior）	積極的な質問、パーティシペイト、持続力、評価の受容、ホスピタリティ

目標設定と行動の変化

- 能力や姿勢を意図的に開発しようとするには、日頃から、これらの能力に関連する行動の変化を意識し習慣化させることが必要である（Boyatzis, 1982）
- 留学前のオリエンテーションにおいて、コミュニケーション力のコのコンピテンシーのうち、留学中に伸ばしたい能力を学生自身に選択してもらい、留学中の行動目標を立ててもらっている。


留学の成功に向けて

一橋大学　国際教育交流センター　渡航前オリエンテーション

A.留学の目的と目標：　最大３つまで、自分にとって重要な留学目的と対応する目標を記入してください

目的１　必須

目標１

目的２　（あれば）

目標２

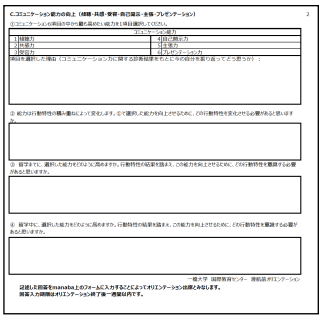
目的３（あれば）

目標３

留学の目的

1	外国生活に必要時を以上、機能面を体化するため	11	専門の（興味のある）分野を本場で学ぶため
2	自分を鍛えるため	12	ﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟ能力を高めるため
3	外国語運用能力を本場で高めるため	13	海外に住むため
4	コミュニケーション能力を高めるため	14	自分探しをするため
5	知識・情報を獲得するため	15	広く外国学ぶするため
6	海外の大学で勉強するため	16	海外で学位を取得するため
7	海外の友人を作るため	17	日本とは違う国内の暮らしを知るため
8	将来のキャリア（就職・進学等）と設定するため	18	大学5年編まれば力アリ」の修了要件を満たすため
9	その国の歴史・文化について現地で学ぶため	19	なんとなく
10	国際語（英語）を学ぶため	20	その他

B.行動特性プロフィールから気づいたこと（自己の特徴）


C.コミュニケーション能力の向上（傾聴・共感・受容・自己開示・主張・プレゼンテーション）　2

①コミュニケーションの項目の中から最も高めたい能力を１項目選択してください。

コミュニケーション能力	
1 傾聴力	4 自己開示力
2 共感力	5 主張力
3 受容力	6 プレゼンテーション力

選択を選択した理由（コミュニケーションに関する自己表現度をもとにその項目を重ねあってどう思うか？）

② 能力は行動特性の積み重ねによって変化します。全て選択した能力を向上させるために、どの行動特性を変化させる必要があると思います？

③ 留学まで、選択した能力をどのように高めますか。行動特性の結果を踏まえ、この能力を向上させるために、どの行動特性を意識する必要があると思いますか。

④ 留学中に、選択した能力をどのように高めますか。行動特性の結果を踏まえ、この能力を向上させるために、どの行動特性を意識する必要があると思いますか。

一橋大学　国際教育センター　渡航前オリエンテーション

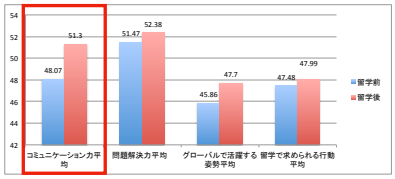
記述した回答をEnmotaｂ上のフォームにスカナすることによってオリエンテーションは終了とみなします。
渡航入力期間はオリエンテーション終了後一週間以内です。

JAOS留学アセスメントテストを用いた過去の分析

- ２０１９年度の一橋大学国際教育センター紀要（印刷中）
  - 計192名のデータ（回答率は86%）
    - 2016年度に留学を開始した学生119名中、アセスメントテスト未受検の3名を除いた116名
    - 2017年度に留学を開始した学生107名中、アセスメントテスト未受検の31名を除いた76名

（抄録では2017年度のデータのみで分析した結果を報告したが、本日は2016年度のデータを追加した結果を報告）

4つのグローバル力の変化



	平均値の差	標準偏差	平均値の標準誤差	差の95%信頼区間 下限	上限	t値	自由度	有意確率（両側）	効果量（d）
コミュニケーション力	3.23	6.98	0.50	2.23	4.22	6.40	191	0.000**	.51（中）
問題解決力	0.91	7.20	0.52	-0.12	1.94	1.75	191	0.082	.12（ほとんどなし）
グローバルで活躍する姿勢	1.84	8.45	0.61	0.63	3.04	3.01	191	0.003*	.20（小）
留学で求められる行動	0.51	4.99	0.36	-0.20	1.22	1.41	191	.161	.10（ほとんどなし）

注）p <.01，p <.001

- **コミュニケーション力の伸びについて統計的に有意義な差異。**
- **留学中の行動目標を設定したことによる影響か？**
- **コミュニケーション力向上の要因を探る必要性がある**

コミュニケーション力のコンピテンシー

傾聴力	相手の言葉を遮らず、最後まで聞き取る力	受信力
共感力	相手の感情や気持ちに寄り沿い、素直に共感する力	受信力
受容力	相手の意見や考え方を、批判しないで、ありのままに受け入れる力	受信力
主張力	自分の考えや意見を、明確に発言し、伝える力	発信力
自己開示力	自分の考えていることや感じていることを、積極的に伝える力	発信力
プレゼンテーション力	資料やデータを使い、相手にわかりやすく説明する力	発信力

本日の報告の目的と仮説

- **目的：**調査対象者が留学前に設定したコミュニケーション力に関する留学目標別（受信力または発信力）と、その目標を留学中に意識していた程度別で、JAOS留学アセスメントテストの測定値の変化に違いがあるのかについて分析。
- **仮説１**：留学中の目標として設定したコミュニケーション力（受信力または発信力）が、目標として設定していないコミュニケーション力と比較して留学後に伸びる
- **仮説２**：留学中の目標として設定したコミュニケーション力の向上を、留学中に意識した頻度の高い者の方が、意識した頻度の低い者と比較して留学後に値が伸びる

分析対象者

- 162名（2016年度と、2017年度に留学を開始した計192名から、留学目的が途中で変化した人（２３名）と留学目的に関する回答に欠損・不備が見られた者（７名）を除外）

分析手順①

- 留学後の振り返りアンケートにおいて回答した、留学前に設定した、留学中に特に向上させたいコミュニケーション力のコンピテンシーを、**受信力**（傾聴力、共感力、受容力）と**発信力**（主張力、自己開示力、プレゼンテーション力）に分類
- 目標とした能力（受信力・発信力）別での留学前後のアセスメントテストの結果の平均値を比較

記述統計結果

①留学前に目標設定したコミュニケーション能力は何でしたか。

1. 傾聴力	19
2. 共感力	16
3. 受容力	13
4. 自己開示力	32
5. 主張力	67
6. プレゼンテーション力	15
合計	162

受信力	48
発信力	114

目標としたコミュニケーション力と変化（１）

		留学前	留学後	差分
受信力の向上を目標（n=48）	受信力	42.34	43.96	1.62
	発信力	54.61	56.88	2.27
発信力の向上を目標（n=114）	受信力	48.63	50.50	1.87
	発信力	45.21	52.33	7.11

発信力を目標とした場合の方が受信力を目標とした場合よりも両方の力の値の伸びが大

発信力の値の方が受信力よりも大きく向上

- **仮説１**：留学中の目標として設定したコミュニケーション力が、目標として設定していないコミュニケーション力と比較して留学後に伸びる
→確認されず。どちらのグループも発信力の方が伸びが大きかった。発信力を目標とした場合の方が、受信力・発信力ともにより大きく増加。

分析手順②

- 留学後の振り返りアンケート「目標設定した能力を高めることを、留学中どの程度意識していましたか」という質問項目に対して、
「いつも・ほぼいつも・ときどき・たまに・まったく（意識していなかった）」の５段階で得た回答を
「いつも」または「ほぼいつも」
「ときどき」または「たまに」
「まったく（意識していなかった）」
の３段階でグループ分けし、留学前後のアセスメントテスト結果の平均値を比較。
（抄録では「ときどき」を除いた値での分析値を報告したが、本日は、分析対象人数を増やすため回答者全員のデータを分析し、分類を再検討し「ときどき」を加えて３段階に設定。）

記述統計結果

目標設定した能力を高めることを、留学中どの程度意識していましたか?

受信力目標	48
発信力目標	114

受信力目標	いつも、ほぼいつも（n=16）
	時々、たまに（n=26）
	全く（n=6）
	合計（n=48）
発信力目標	いつも、ほぼいつも（n=49）
	時々、たまに（n=84）
	全く（n=1）
	合計（n=114）

目標としたコミュニケーション力と変化（2）

		受信力1	受信力2	発信力1	発信力2	受信力差分	発信力差分
受信力目的	いつも、ほぼいつも（n=16）	45.74	49.81	53.44	56.38	4.07	2.95
	時々、たまに（n=26）	41.44	41.35	54.87	56.54	-0.09	1.68
	全く（n=6）	37.20	39.73	56.65	59.66	2.53	3.01
	合計（n=48）	42.34	43.96	54.61	56.88	1.62	2.27
発信力目的	いつも、ほぼいつも（n=49）	48.69	51.11	46.82	52.56	2.41	5.74
	時々、たまに（n=84）	48.58	50.15	43.99	51.89	1.57	7.90
	全く（n=1）	48.67	42.66	44.51	68.98	-6.01	24.47
	Total	48.63	50.50	45.21	52.33	1.87	7.11

- **仮説２**：留学中の目標として設定したコミュニケーション力の向上を、留学中に意識した頻度の高い者の方が、意識した頻度の低い者と比較して留学後に値が伸びる

  →**確認されず**。意識した頻度にかかわらず伸びていた。ただし、「全く（意識していなかった）」の回答者数がわずかだったことにも注目。

自由記述（目標設定した能力を高めるために、留学中にどのような努力をしましたか。）

- **意識していた程度『全く（意識していなかった）』の学生**
  - 積極的に色々な人に話しかける。
  - 以前は自分から声をかけたりすることがなかったのですが、積極的に自分から話しかけたり、イベントに誘ったりしました。
  - 自分と異なる価値観を持つ人の話も、始めから決めつけて聞くのではなく、必ずしも賛成しなくても最後まで聞くようにした。
  - 自分の興味関心分野に沿って、学内・学外問わずボランティア活動に積極的に参加することで、それぞれの場で自己開示を通して周囲と信頼関係を築くことを意識した。
  - ゼミなどの議論が中心の講義を受講し、積極的に発言するように努めた。
  - 出来るだけ異なるバックグラウンドや価値観を持つ人に会うために、常にバーやパーティ、イベントやセミナーなどで交流の機会を持った。日本人や東アジア圏の人々との交流はあえて避け、欧米や中東など、価値観の違いが顕著な人々と積極的に交流するように心がけた。

まとめ・今後の課題

- **仮説１**：コミュニケーション力のうち、受信力・発信力の向上を目標としたグループどちらも発信力の方が伸びが大きかった。発信力の向上を目標としたグループは、受信力・発信力ともに伸びが大きかった。
  - 留学中は、発信力の向上に焦点を当てた目標設定を行うことが有益か。
- **仮説２**：コミュニケーション力の向上に関する意識の程度にかかわらず、留学後の値が伸びていた。
  - 意識頻度についての把握方法について要改善。間接評価の限界？
  - インタビュー等でのさらなる分析が必要。

引用・参考文献

- Boyatzis, R.E. (1982). The competent manager: A model for effective performance. London: Wile.
- Braskamp, L. A., Braskamp, D. C., & Engberg, M. E. (n.d.). Global Perspective Inventory: Its Purpose, Construction, Potential Uses, and Psychometric Characteristics.
- Hammer, M. R., Bennett, M. J., & Wiseman, R. (2003). Measuring intercultural sensitivity: The intercultural development inventory. *International Journal of Intercultural Relations*, *27*(4), 421–443.
- Meyer-Lee, E., & Evans, J. (2007). Areas of study in outcomes assessment. In M. C. Bolen (Ed.), A guide to outcomes assessment in education abroad (pp. 61–70). Carlisle, PA: Forum on Education Abroad.
- Shealy, C. N. (2005). Justifying the Justification Hypothesis: Scientific-humanism, Equilintegration (EI) Theory, and the Beliefs, Events, and Values Inventory (BEVI). *Journal of Clinical Psychology*, *61*(1), 81–106.
- 学校法人河合塾（2018）『「日本人の海外留学の効果測定に関する調査研究」成果報告書』
- グローバル人材育成委員会（2010）「産学人材育成パートナーシップグローバル人材育成委員会報告書：産学官でグローバル人材の育成を」
- グローバル人材育成推進会議（2012）『グローバル人材育成戦略（グローバル人材育成推進会議 審議まとめ）』
- 総務省（2017）「グローバル人材育成の推進に関する政策評価＜結果に基づく勧告＞」
- 徳永保（2011）「大学におけるグローバル人材育成に関する調査研究報告書」平成 23 年度国立 教育政策研究所プロジェクト研究、国立研究政策研究所
- 西谷元（2018）「留学体験の客観的測定-BEVIを用いて」『大学時報』, 174–79頁
- 日本学生支援機構（2019）「協定等に基づく日本人学生留学状況調査結果」
- 日本経済団体連合会 (2016). 「2016 年度新卒採用に関するアンケート調査結果の発表」
- 松下佳代（2012）「パフォーマンス評価による学習の質の評価: 学習評価の構図の分析にもとづいて」京都大学高等教育研究, 第18号, 75–114頁
- 山田礼子（2017）「学習成果の可視化の方法：直接評価と間接評価の組み合わせ」『*IDE* 現代の高等教育』 590号, 24–29頁
- 渡部由紀・阿部仁・星洋・二子石優（2017）「グローバル環境で育む４つの力：留学前段階における派遣学生の行動特性測定結果」『一橋大学国際教育センター紀要』 第8号, 143-156頁